

2023年度環境経営レポート



株式会社 グローバルテクノス

対象期間 2023年11月1日～2024年10月31日

レポート発効日: 2024年11月日

1. 組織の概要に関する情報

事業所名及び代表者氏名	株式会社 グローバルテクノス 代表取締役 梅沢 隆之																
法人設立年月日	平成14年11月18日																
資本金	1,000万円																
所在地	【本社】 神奈川県横浜市旭区川井本町70番地7 (自社管理地) 電話番号：045-955-5835 《その他の所在地》 【第一車庫】 神奈川県横浜市旭区川井本町70番地 (地主：栗原管理地) 【第二車庫】 神奈川県横浜市旭区上川井町500番地 (横溝(良)管理地) 【第三車庫】 神奈川県横浜市旭区下川井町2143-4・5 (地主：櫻井管理地)																
環境管理責任者氏名 及び 担当者連絡先	環境管理責任者及び担当者：辻 雅行 連絡先：神奈川県横浜市旭区川井本町70-7 電話番号：045-955-5835 FAX番号：045-955-5836																
事業活動の内容	産業廃棄物収集運搬業（積み替え保管なし・積み替え保管あり）、中間処理業、一般廃棄物収集運搬業、 廃プラスチック再生事業 ※詳細は産廃ネット《 http://2.sanpainet.or.jp 》に情報開示。																
事業の規模 (2023年度)	<table><tr><td>○中間処理量</td><td>6,697 t</td></tr><tr><td>○収集運搬量</td><td>7,031 t</td></tr><tr><td>○再資源化物</td><td>4,443 t</td></tr><tr><td>○売上高</td><td>310百万円 (2022年度)</td></tr><tr><td>○従業員数</td><td>12人</td></tr><tr><td>○工場延床面積</td><td>1221㎡</td></tr><tr><td>○最大保管量/高さ</td><td>172.84㎡/3m</td></tr><tr><td>○用途地域</td><td>準工業地域</td></tr></table>  	○中間処理量	6,697 t	○収集運搬量	7,031 t	○再資源化物	4,443 t	○売上高	310百万円 (2022年度)	○従業員数	12人	○工場延床面積	1221㎡	○最大保管量/高さ	172.84㎡/3m	○用途地域	準工業地域
○中間処理量	6,697 t																
○収集運搬量	7,031 t																
○再資源化物	4,443 t																
○売上高	310百万円 (2022年度)																
○従業員数	12人																
○工場延床面積	1221㎡																
○最大保管量/高さ	172.84㎡/3m																
○用途地域	準工業地域																

1-1. 事業の範囲と施設に関する情報



- 事業の区分
産業廃棄物中間処理（圧縮、破碎）
- 施設の概要及び産業廃棄物の種類
中間処理：圧縮施設1基 《67.14 t/日》
【廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類、以上7種類】
中間処理：破碎施設1基 《21.6 t/日》
【廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、以上6種類】
[特別管理産業廃棄物を除く]



- 運搬車両の種類と台数
10 t 低床ウイング車×4台・4 t ウイング車×2台・4 t 脱着式コンテナ車×2台・4 t 塵芥車×1台
- 廃棄物の種類
【燃え殻、汚泥（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類（水銀使用製品産業廃棄物を含む及び石綿含有産業廃棄物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む及び石綿含有産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）、ばいじん 以上15種類】
[特別管理産業廃棄物を除く]



- 廃棄物の種類
【汚泥（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、廃プラスチック類（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、木くず、繊維くず、金属くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む） 以上6種類】
[特別管理産業廃棄物を除く]

- 保管施設の概要
保管面積：16.68m² 保管上限：19m³

一般廃棄物収集運搬の部

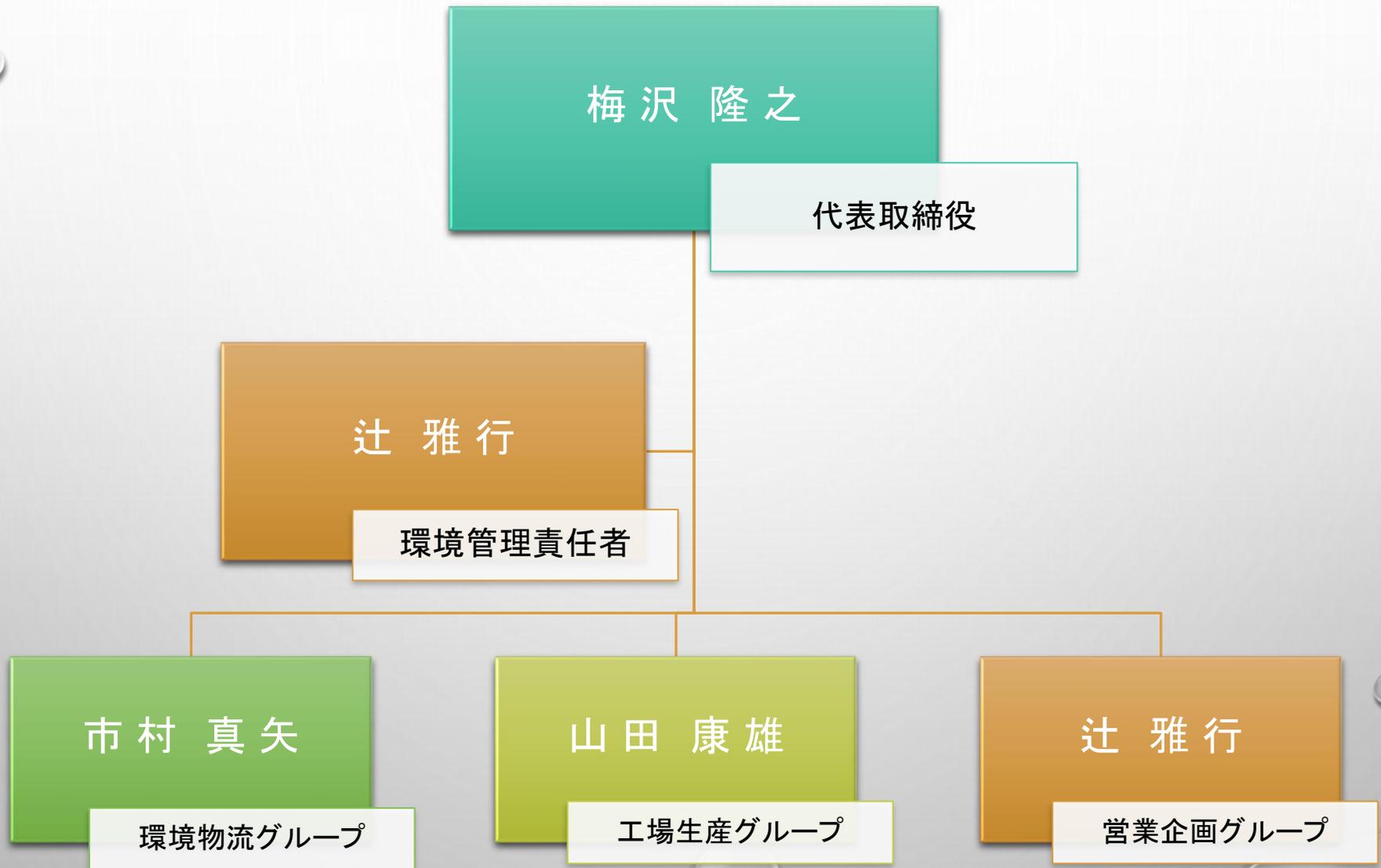


- 廃棄物の種類
【一般廃棄物（木くず） 以上1種類】
（上記物はいずれも有害物質を含むもの並びに廃PCB及びPCB汚染物を除く）

1-2. 事業の許可内容に関する情報

	都道府県及び政令都市	許可番号	許可年月日		許可の有効年月日
産業廃棄物収集運搬	神奈川県	01402105121	更新	R5.10.27	R10.10.1
	東京都	第13-00-105121号	更新	R5.9.29	R10.9.28
	横浜市 (積替え保管含む)	第05610105121号	更新	R5.2.1	R10.1.31
	千葉県	第01200105121号	更新	R3.2.18	R7.12.1
	埼玉県	第01100105121号	更新	H33.9.9	R8.9.8
	茨城県	00801105121号	更新	R3.8.17	R8.5.12
	静岡県	第02201105121号	更新	R1.9.25	R11.9.24
一般廃棄物収集運搬	横浜市	第1812号	更新	R5.5.31	R7.3.31
産業廃棄物中間処分	横浜市	第05620105121号	更新	R2.9.1	R7.8.31
廃棄物再生事業者	神奈川県	第G00237号	更新	R4.5.23	R9.5.22

1-3. 組織図



1-4. 処理工程図



入荷

分別・分類



圧縮・破碎

出荷



1-5. 処理料金及び買い取り価格

廃プラスチック処理費	25円/kg～
各種廃プラスチック 買い取り価格	0円/kg～

物品により処理費及び買い取り価格が異なりますのでお問い合わせください。

2. 対象範囲

対象範囲（認証・登録範囲）

本社・再資源化工場

レポートの対象期間
及び発行日

レポート対象期間
2023年11月～2024年10月

発行日
2024年11月20日

3. 株式会社グローバルテクノス 環境方針

改訂：2020年11月1日

企業理念

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つである事を認識し、企業活動のあらゆる面で、地球環境への負荷を最小限とする企業を目指し、環境問題への取り組みを具体的に推進し、併せて社会貢献を図ります。

環境方針

株グローバルテクノスは、環境保全の重要性を認識し、環境負荷を低減し、全従業員をあげて環境保全に努めるため「環境方針」を以下に定めます。

①3R・省資源・省エネルギー活動の推進

・廃棄物の収集運搬をはじめとする各種サービスの提供等の企業活動において、廃棄物の再利用・排出量削減・再資源化、省資源・省エネルギー活動の推進等により環境保全に寄与する。

②環境関係法規等の遵守

・国、都道府県、市町村等の環境関連の法律・規則・条例等を遵守すると共に近隣地域住民及び、団体が進める 環境保全活動に参画します。

③環境保全活動の継続的な推進

・環境目的、目標を設定して、これを定期的に見直すと共に、その達成の実施により、環境経営システムの継続的な改善に努めます。

④啓蒙活動の推進

・社内の環境活動体制・規定及び要領等の整備はもとより、従業員への教育・訓練等により、従業員一人一人が環境問題に対する意識を深め、具体的な行動を行っていくために啓蒙活動を推進します。

⑤マテリアルリサイクル率の向上

・受け入れた廃棄物のマテリアルリサイクル率を向上させ地球レベルの環境保全に寄与します。

この環境方針は、全従業員に周知すると共に、必要に応じ社外に公表し、その達成に努めます。

株式会社グローバルテクノス
代表取締役 梅沢 隆之



4-1. 環境目標

環境経営目標の結果と中長期目標

項目	基準期間のデータ	目標の結果と中長期目標							
	2022年度	2023年度			2024年度目標		2025年	2026年	2027年
		目標	結果	判定	目標	目標値			
処理工場・本社事務所電気使用量[kw]	26,338	1%削減 26,074	28,431	×	2023年度維持	28,431	維持継続 28,431	維持継続 28,431	維持継続 28,431
収集運搬車両・工場内重機燃料[l]	59,086	1%削減 58,495	66,530	×	2023年度維持	66,530	維持継続 66,530	維持継続 66,530	維持継続 66,530
二酸化炭素[kg-co2]	157,452	1%削減 155,877	177,638	×	2023年度維持	177,638	維持継続 177,638	維持継続 177,638	維持継続 177,638
業務活動あたりの二酸化炭素排出量[kg-co2] <small>二酸化炭素排出量÷(収集運搬量+中間処理量)</small>	9	1%削減 8.8	13	×	2023年度維持	13	維持継続 13	維持継続 13	維持継続 13
上下水道使用量[m3]	86	1%削減 85	74	○	2023年度維持	74	維持継続 74	維持継続 74	維持継続 74
本社コピー用紙使用量[枚]	20,721	1%削減 20,513	15,516	○	2023年度維持	15,516	継続維持 15,516	継続維持 15,516	継続維持 15,516
一般廃棄物[kg]	360	1%削減 356	385	×	2022年度維持	385	継続維持 385	継続維持 385	継続維持 385
中間処理における リサイクル率100%の維持	リサイクル率100%の達成	基準年維持	達成	○	リサイクル率100%の達成維持		維持継続	維持継続	維持継続

(化学物質の使用無し)

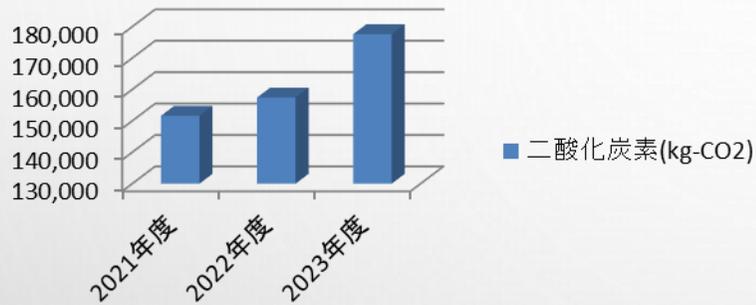
4-2. 中長期的施策

中長期的施策	内 容
工場生産量の増加	弊社は、リサイクルを目的とした事業活動を行っているため、その事業活動自体そのものが環境負荷の低減であると考えます。ゆえに、工場生産量及び収集運搬量の毎年の増加がとりわけ環境負荷の低減につながる。 従って、企業売り上げ目標と比例するため、工場生産と、収集運搬、処理処分を合わせ、今後4年で、約30%の売り上げ増を計画する。
収集運搬の効率化	全収集運搬車両にデジタルタコグラフを導入し、データの取りまとめを行う。
化石燃料・電気・ガス使用の効率化	アイドリングストップの徹底。工場施設の待機電力の節電の徹底。
水資源購入量の節約	水資源購入量の変動要因のほとんどが生活排水である。したがって、その削減に努める。
事業所内の環境活動の見直し	コピー用紙の削減、グリーン購入の推進、事業ごみの削減に再度、取り組む。
NPO法人Reーライフスタイルの参加	活動参加数を増やし、キャップ回収拠点となり、積極的に参加する。
カーボンオフセットの推進	運搬・工場生産・水使用・電気・ガス等のCO2排出量を把握し、事業全体のCO2排出量を削減する。 方法は、工場プラ全販売量に対して、54円/tを植林事業に充当し、約30%のCO2をオフセットして行く。 【カラマツ1本1200円 250kg/年のCO2オフセットが出来る。】 残りの70%をCO2国内クレジットや横浜ブルーカーボン・オフセット制度を利用し、全量をオフセットする。 2018年11月から新電力会社であるアーバンエナジー(株)の都市ごみ焼却発電、バイオマス発電、太陽光発電など再生エネルギー100%でCO2排出係数ゼロの電力の購入を開始した。

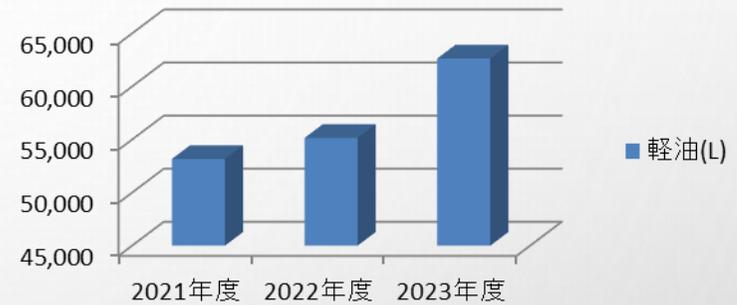
7. 環境目標の実績

購入電力のCO2排出係数: 0.00kg-kwh

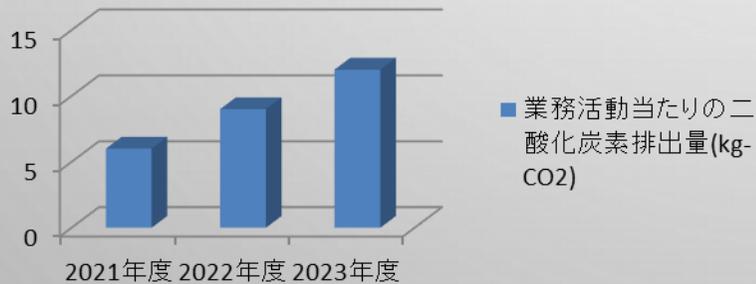
二酸化炭素(kg-CO2)



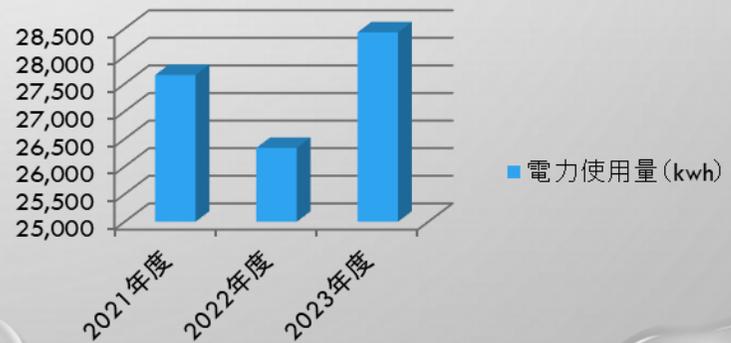
軽油(L)



業務活動当たりの二酸化炭素(kg-CO2)



電気使用量(kwh)



8. 環境活動計画の取組結果とその評価

NO.	項目	評価	見直し結果	改善責任者・期限
1	工場生産量の把握 収集運搬量の把握	現在まで明確な生産量を把握が出来ている 現在まで明確な運搬量を把握が出来ている		
2	化石燃料、電気、ガス 使用量データの把握	現在まで、化石燃料、電気、ガスの 使用量の把握が出来ている	○運搬・工場生産・水使用・電気・ガス等のCO2排出量を把握した。 事業全体のCO2排出量を削減する。 方法は、工場プラ全販売量に対して、54円/tを植林事業に充当し、 約30%のCO2をオフセットして行く。 【カラマツ1本1200円 250kg/年のCO2オフセットが出来る。】 ○残りの70%をCO2国内クレジットや横浜ブルーカーボン・オフセ ット制度を利用し、全量をオフセットした。 ○2018年11月から新電力会社であるアーバンエナジー(株)の都市ご み焼却発電、バイオマス発電、太陽光発電など再生エネルギー 100%でCO2排出係数ゼロの電力の購入を開始した。 ○2021年11月に全収集運搬車両のデジタルタコグラフを入れ替え、 法を順守し、安全運転の向上及び収集運搬効率に役立て、新たな データ収集を行い、エコアクション21に反映させる。	梅 沢
3	水資源購入量の把握	水資源の購入量の把握が出来ている		
4	環境保全活動の参加	NPO法人「Re・ライフスタイル」の活動を 開始、参加している	今後も、理事となり参加していく 集められたキャップを有価で購入し、団体の募金事業に貢献を行う。	梅 沢
5	安全衛生教育 年1回開催 緊急事態訓練 年1回開催 エコドライブ講習 年1回開催	安全衛生教育・緊急事態訓練・エコドライブ講習が各1 回開催された。	地元小学生へ出向き、環境教育を開催(年1回) 今後も継続する。	梅 沢
6	2023年度総括	環境経営方針、環境活動目標、環境活動計画、実施体制を全て確認したうえで、改善すべき点や見直す点は見受けられな かったため、現状のままでも今後も継続していくこととする。		梅 沢

9. 受託した産業廃棄物の処理量

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
廃プラスチック類	t	1,697.52
木くず	t	5,278.32
金属くず	t	38.79
ガラス・陶磁器くず	t	7.42
がれき類	t	2.47
汚泥	t	6.34
合計	t	7,030.86

	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理	廃プラスチック類	選別・圧縮・破碎	t	382.48
	木くず	選別・圧縮・破碎	t	6,277.58
	金属くず	選別・圧縮・破碎	t	28.09
	ガラス・陶磁器くず	選別・圧縮・破碎	t	8.45
再資源化等	廃プラスチック類	選別・圧縮・破碎	t	382.48
	木くず	選別・圧縮・破碎	t	6,277.58
	金属くず	選別・圧縮・破碎	t	28.09
	ガラス・陶磁器くず	選別・圧縮・破碎	t	8.45
	小計		t	6,696.60
合計		t	6,696.59	

11. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規等は、廃棄物処理及び清掃に関する法律、横浜市生活環境の保全等に関する条例、騒音規制法、振動規制法、道路運送車両法、使用済み自動車の再資源化等に関する法律、自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法である。当社は、環境関連法規等の遵守状況をチェックしており、過去3年間、環境関連法規等への違反はありません。

12. 代表者による経営における課題とチャンス

<p>事業を取り巻く状況</p>	<p>弊社事業は再生可能な廃プラスチックと廃木材を収集運搬中間処理し、有価物として再生商品化ルートに売却している。契約件数は増えているが、コロナ禍以降、原油高、円安、諸外国の紛争などの影響により個々の工場から発生する廃棄物量が減少している為、弊社取扱量も減少している。また、燃料費、高速代に始まり、各方面の値上げが著しく経営状況を圧迫する。</p>	
<p>事業と環境とのかかわり</p>	<p>弊社のリサイクルは、主に再生商品化を目的としているため、プラスチックや木材の素材が燃やされ灰になったりすることなく、世の中に生きて巡る。資源の枯渇や、CO2削減に寄与している。</p>	
<p>経営方針</p>	<p>上記に記述した通り、弊社のビジネスモデルは環境保護と会社の売上向上がイコールになる。弊社が取り扱い廃棄物量を増やせば増やすほど、また、会社の売上げを上げれば上げる程、三方良しとなる。このビジネスモデルを新規顧客に理解していただき顧客獲得に向ける。</p>	
	<p>事業者の内部に起因するもの</p>	<p>事業者の外部に起因するもの</p>
<p>経営における課題 (事業上の弱み、問題点等)</p>	<p>諸外国の廃棄物輸入規制により、海外向けの販路が閉ざされつつありこの先の海外販売ルート確保が難しい。少人数の会社運用であり、売り上げ拡大に制約がある。</p>	<p>コロナ禍以降、原油高、円安などの影響で廃棄物排出量が減少している。世の中の消費動向や消費構造が大きく変わっている。顧客の経営環境も変化し、既存事業の復調が見込めない様子。</p>
<p>経営におけるチャンス (事業上の強み、有利な点等)</p>	<p>長きにわたる廃プラスチックや廃木材リサイクルのノウハウの蓄積。産業廃棄物業界の業界活動も理事を務め、先進の情報を取り入れ、行く道を素早く決定できる。</p>	<p>海洋プラスチック問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制等への対応の契機として、国内におけるプラスチック及び木質チップの資源循環を一層推進する重要性が高まっている。</p>

13. 代表者による全体評価と見直しの結果

当社は、2006年から長きに渡り環境マネジメントシステムEA21を推進しております。今年度は、エコアクション21産業廃棄物事業者向けガイドライン2017年版に完全移行するにあたり、再度、当社の環境活動全体について見直しました。

しかし、コロナ渦により必要データにバラつきが生じ、基準年の設定が定まらず、不十分であることから次年度の環境活動は、ガイドライン2017年版に準拠したものであると同時に、コロナ禍におけるデータ作成として基準年を2019年に設定し、エコアクション21における方針転換を行いました。コロナも収束したため、あらたな基準年を本年度以降、2023年に設定し活動して参ります。

また、事業活動においても引き続き、無駄を省き、効率化の徹底を図り、新しい時代に沿った事業対応を致します。

全従業員一丸となり、この難局を乗り越え、今後も未来により良い地球環境をつなげるために邁進してまいります。